

「高城プライド」 ～心と形を整える～

令和4年2月25日(金) NO31 文責 木下 文秋

明るく元気に、そして前向きに

最近では部活動をせず下校をする姿が当たり前となり、顧問の先生方の気持ちもなえてきたように思います。それくらい学校の活気は失いつつあります。給食もグループを組まず全員前向きで食べており「黙食」という聞いたこともない言葉まで生まれました。当初職員は生徒と向き合って黙食していましたが、ついに最近では職員も生徒と向き合わない形で黙食しています。体育の授業は接近したりしない。音楽は合唱やリコーダーは避けるといった苦しい授業の在り方も求められています。2年前は分散登校とかしていましたが、感染の状況で言えば今の方が明らかに悪い状況に思えます。そんな中3年生の入試は粛々と行われました。初めての自己推薦入試がありその内定者の通知がありました。あくまでも内定であって合格ではありません。取り消しもあります。まさかの「内定」と「内定ならず」の姿があり「喜ぶ姿」「泣き崩れる姿」を見て色々な感情がありました。マスク越しの顔しか見ていないので、3年生の願書に貼ってある顔写真を見て初めてその表情を知ったということも珍しくありません。生徒も私のマスク越しの顔しか知らないはずで、町で会っても分からないのでは。むしろマスクしていた方がわかりやすいという不思議な現象も起きそうです。この一年、歓迎会も祝勝会もできませんでした。恐らく学校の送別会も、やって弁当を食べる程度でしょう。部活動の送別会もどうなることやら。3年生は修学旅行も経験できず、入学して色々な行事に制限や縮小が加わり本当にかわいそうな中学校生活になりました。しかし、恨んでいても何も生まれませんし、次につながりません。少なくとも、4月からは新しい環境、新しい仲間とそれぞれの生活を送る楽しみがあります。自己推薦入試で内定がもらえなかった生徒の皆さん。君の努力が足りなかったのではないと思うよ。内定と内定ならずの差は誰も知り得ません。下を向かず、自分を責めず一般入試を迎えて下さい。1, 2年生の皆さん。部活動の本格的な再開が待たれます。放課後の体育館と運動場で、はつらつと動き回る姿が待ち遠しく思います。今は、どうすれば安心安全で感動的な卒業式ができるか考え中です。日本中の人々が、我慢と辛抱の毎日だけど、こんな時こそ「明るく元気に、そして前向きに」生きていきましょう。明けない夜はないと言います。